

シャロームメモ

2020. 1. 21

第15号

1. 「シャローム平和のための祈りのセンター1月の意向」を共に祈りましょう

今月は以下の祈りの意向が寄せられました。恵みの家が全世界の SSND を代表して世界の平和を祈る毎月の 23 日に、コミュニティーで、個人で、また関わりある方々と共に心を合わせて祈りましょう。

- ① 昨年私たちは『すべてのいのちを守るため』をテーマに教皇フランシスコの訪問を受けました。すべてのいのちは神からの愛のたまものです。私たちが個人として共同体としても、神からの愛のたまものを大切にして生きるものとなれますように、そして、私たちがすべてのいのちを守る社会を造るため貢献するものとなれますよう、照らし導いてください。
- ② 教皇は短い日本滞在の間に広島・長崎を訪れ、被爆者の証言に耳を傾け「核抑止力による平和はあり得ない」と明言されました。これを受け、日本カトリック司教協議会は、日本が一日も早く核兵器禁止国際条約への署名と批准を実施するよう安倍総理に要請しています。日本をはじめ核保有国・核の傘の下にある国が一日も早く署名・批准をし、この条約が発効して、世界から核兵器が廃絶される日が来ますよう、神の恵みを祈ります。
- ③ インドネシアで米国や欧州から違法に持ち込まれたプラスチックや汚染された家庭ごみが大量に見つかり、政府が輸出国に送り返す措置を取りましたが、インドやタイ、ベトナム、韓国などに再輸出されたそうです。私達が個人として地域としてごみ処理への意識を高めると共に、ごみ問題を地球規模で考え解決への道を切り開くことができますよう、私たちに照らし、導いてください。
- ④ 食べ物が無く飢えている人々がいる一方で、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品が世界中で大量に増加し、日本国内での廃棄食料は年間600万トンを超えています。一方、多くの人々がこの問題に取り組み、フードバンクや廃棄予定の食品のシェアリングなどが行われています。これらの取り組みを祝福してください。私たちもこの問題に意識的になり、自分たち自身が食べ物を無駄にしない生活をすると同時に、積極的な取り組みについて学び、サポートしてゆくことができますように。
- ⑤ 昨年9月から続いているオーストラリアの森林火災はあと数か月続くと予想されています。現在でもすでに、約5億の野生動物が犠牲になり、多くの人々が被災し、健康被害が広がっています。1日も早い鎮火と消火活動に携わる人々の安全が守られますように、また大規模火災の要因の一つである気候変動を抑制するために、各国が地球温暖化防止に真剣に取り組むように、聖霊の導きをお祈りします。

2. 2月の『国際シャローム平和を祈る日』の意向を募集しています。

皆さまのご応募をお待ちしています。多くの方々から祈りの意向が寄せられると、私たちの祈りの視野が広がり、深まります。祈りの意向は、2月17日（月）までに本部オフィスまたはS. ジュディスにお届けください。

平和のための祈りのセンターはシャローム活動の発電所です。毎月23日は日本の当番にあたっていますので、私たちの祈りによって全世界のシャロームの取り組みに実りをもたらすことができますように。

3. シャローム委員会メンバーを募集しています

シャローム委員会メンバーはどのようなことをするのかなどなど、質問のある方、迷っておられる方も是非シスタールチャまたはシスタージュディスまでお声をかけてください。

4. お知らせ

- 核兵器廃絶1000万署名にご協力ありがとうございました。各修道院から合計30筆の署名をいただきましたので、小山教会の和田様を通じてJAMシニアクラブにお送りしました。この運動は1000万筆の署名が集まるまで続きますので、この後も署名が届きましたら、本部にお届けください。